

2021 年度第 2 回研修会・くつきの森

報告者 小西 民人

参加者 5月 1 日下見 佐々木、高橋、橋木、関澤、小西 5 名
5月 9 日本番 梶谷、高橋、平田、高田、清水、森上、前田、
西(2)、槻(一般)、小西 11 名

今年度 2 回目の研修会はくつきの森を研修地に、その森の「アチラ山コース」を午前中に、午後は海外産を含めて多くの植物が植栽されている「ほとらんどコース」を歩きました。

アチラ山コースは関西電力の鉄塔管理道を利用しての道で、最初に少し急な勾配があり、やや負担の大きなコース。午後は比較的アップダウンの少ない、楽なコース設定としました。

昼食はやまね館内でのんびり。ヤマビルの登場もありましたが、春のくつきの森を堪能できたのではないのでしょうか！

確認できたものを、下見と本番合わせて、科ごとに列挙します。

アオイ科(シナノキ)、アケビ科(ミツバアケビ)、アジサイ科(イワガラミ、ノリウツギ)、イチョウ科(イチョウ)、ウコギ科(コシアブラ、タカノツメ、タラノキ)、ウルシ科(ツタウルシ)、エゴノキ科(エゴノキ、ハクウンボク)、カバノキ科(アカシデ、イヌシデ、ハンノキ)、ガマズミ科(オオカメノキ、オオデマリ、オオミヤマガマズミ、ガマズミ、コバノガマズミ、ミヤマガマズミ、ヤブデマリ)、クスノキ科(カナクギノキ、クロモジ、シロモジ、ダンコウバイ)、クワ科(ヤマグワ)、サルトリイバラ科(サルトリイバラ)、スイカズラ科(タニウツギ、ツクバネウツギ)、ツツジ科(アセビ、イワナシ、ドウダンツツジ、ナツハゼ、ネジキ、ハナヒリノキ、モチツツジ、ヤマツツジ、レンゲツツジ)、ツバキ科(ヤブツバキ)、トウダイグサ科(アカメガシワ)、ニガキ科(ニワウルシ)、ニシキギ科(ツリバナ)、バラ科(ウラジロノキ、ウワミズザクラ、カスミザクラ、カリン、キンキマメザクラ、クサボケ、ケカマツカ、サンショウバラ、シロヤマブキ、ナナカマド、ニガイチゴ、ヒマラヤコリンゴ、ヤマザクラ、ヤマナシ、ワタゲカマツカ)、ヒノキ科(アスナロ、スギ、ヒノキ)、ブナ科(イヌブナ、ウラジログシ、クスギ、クリ、コナラ、ブナ)、マツ科(アカエゾマツ、アカマツ、モミ)、マツブサ科(シキミ、マツブサ)、マメ科(サイカチ、フジ)、マンサク科(シナミズキ、マルバマンサク)、ミカン科(カラタチ)、ミズキ科(ハンカチノキ、ミズキ、ヤマボウシ)、ムクロジ科(イタヤカエデ、イロハモミジ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、オオイタヤメイゲツ、オオモクゲンジ、オオモミジ、カラコギカエデ、コハウチワカエデ、チドリノキ、トチノキ、メグスリノキ)、モクセイ科(タンナサワフタギ、マルバアオダモ、ミヤマイボタ)、モクレン科(タムシバ、ホオノキ)、モチノキ科(アオハダ、ソヨゴ)、リョウブ科(リョウブ)。 以上、木本 32 科 99 種。

草本としては、ヒカゲノカズラ、マツカゼソウ、シハイスミレ、ヒメハギ、タニギキョウ、ムラサキサギゴケ、フデリンドウ、キンラン、エビネ、サワオグルマなど。

以下、下見と本番で撮った写真を載せて報告とします。

《下見》



マダラマルハヒロズコガ(別名:鼓蓑虫)の巣と幼虫

アリの巣の周辺でおこぼれを待つ。



第1鉄塔にて集合写真



ツキノワグマの爪痕



熊棚の跡？ タカノツメに。幹に爪痕も。



シカの食害を受けないアセビの新葉



左;カスミザクラ 右;キンキマメザクラ



フデリンドウ 大きな根生葉がない。



チドリノキ 花



サイカチの幹 枝の変化した刺が多い。



キンラン 黄色は昆虫を誘う。日がさすと花を開き蜜標を見せる。



サワオグルマ 湿った場所に多い。

《本番》

この日は一般参加も含めて、久々に2桁の参加者がありました。新しいメンバーの参加は今までの会員にとって研修意欲を大いに掻き立てられる効果があります。ぜひ、今後も多くの会員や一般の人の参加が得られるように、企画や宣伝に注力できればと思います。

さて、10本ほどのタカノツメの幹にクマの爪痕が見られるアチラ山コース出発です。シカもいるようで、シカの苦手な植物もちらほら。あとの写真で紹介するクマの皮剥ぎもフレッシュなのが2本あり、今にも出現しそうな雰囲気、比較的自然度の高いコースでした。

午後は植栽されているものも含めて多くの樹木が見られ、観察にはもってこいのコースで、掲載する写真が自ずから多くなりました。フジ以降の写真を参照してください。



アチラ山コース 出発です。



ヒカゲノカズラ 名前と違って日当たりのよい場所に多い。シカは食感が悪い
ためか食べない。胞子葉が伸びている。



ハナヒリノキ 葉を乾燥させて粉にし、
それを吸い込むとひりひりしてくしゃ
みが出る。有毒。



キンキマメザクラの実
サクランボの中で、美味しい方。



生々しい熊剥ぎの跡。下見の時はなくて、当日の未明かその前日以内の荒行の様子。まず頭の高さほどの位置に爪を立てて下向きに強い力を加えて樹皮をはぎ取り、出てきた内皮を下顎の門歯で下から上向きに削ぎ取ったあと甘い樹液を舐めるようです。樹木は冬から春先にかけて幹の凍裂と後の生長のために形成層に多くの栄養を糖分に変え送ります。その糖分を狙ったツキノワグマの所業です。



フジ 例年より2週間以上早い開花。
ほとらんどコース出発です。



ハクウンボク まだ蕾の段階。



ミズキ こちらは例年通りの開花。
日長で開花するタイプか？



レンゲツツジ 有毒で蜜にも毒がある。
オレンジ色の蜜標あり。



ツタウルシ ツタと違って
枝を横に伸ばす。



キンラン 下見とは違う場所。



エビネ



オオモミジ 花と若い実



ブナの葉につく幼い虫こぶ
ブナハマルタマフシ(ブナマルタマバエ
による) 6月頃に成熟する。



サンショウバラの蕾 葉はサンショウ
そっくり。自生地の静岡県と山梨県
では絶滅危惧種。花は一重のピンク。



カリンの花



ハンカチノキの花



チドリノキの果実



カラコギカエデの蕾 葉は対生につくが、枝の先端は互生の場合もある。樹皮は鹿子模様に剥がれる。



ブナの若い果実 今年は生り年か？



第3鉄塔にて 集合写真。
もう一人は報告者。